

団 体 名	松島湾アマモ場再生会議（1 ページ目）	
代 表 者	代表 桑原 茂	
所 在 地	宮城県多賀城市笠神3－1－39	
事 業 内 容	「海草アマモの繁茂を軸とした松島湾海洋環境の復興と生物多様性創出」 1. 目的 アマモは沿岸砂泥域における海草であり、光合成によって成長するイネ科の植物である。遠浅の砂泥海底に「アマモ場（ば）」と呼ばれる大群落を作る。アマモ場は潮流を和らげ、外敵からの隠れ場ともなるため、魚類や頭足類の産卵場所、または幼稚魚や小型動物の生息場所となる。また、富栄養化のもととなる窒素やリンを吸収し、水質浄化の面でも重要な役割を果たしている。東日本大震災前に松島湾は約1300haあまりのアマモ場が確認されていたが島影などを除きその90％は流出した。その影響は牡蠣の弊死や海苔の磯焼けなど地場産品にも影響を与え、ハゼ、アナゴ等の地域文化、郷土料理と密接につながる魚類の減少、環境面では海水の濁り、水温上昇などが頻繁に繰り返されいまだその傾向は顕著である。活動の端緒はアマモを軸とした里海の復興、副次的には震災による人々の海離れ、故郷の海へ抱く怖れを和らげたいという願いから2012年に当会は発足し活動を開始したものである。 2. 内容 ①アマモ花枝採取と生き物調査 6月14日塩竈市浦戸桂島 アマモの群生は夏場を迎えると海底から抜けて流出してしまう。その前に花枝と呼ばれる発芽前後の種を採取し、秋の撒布時期までに海中で涵養をする事業である。一般募集の市民、ボランティアスタッフ、協賛企業など120人が参加して実施したもの。当日参加者はマリゲート塩竈（松島湾観光船の発着所）集合、2艘のチャーター船で浦戸諸島桂島岸壁に8:30着岸。小船4艘でアマモのドナーサイトとなる桂島の前浜に参加者をピストン輸送して開会式や安全講習等を実施後にアマモの花枝採取を実施。その後、アマモと生き物の関係、アマモが海のゆりかごと呼ばれていることを実際に知ってもらうため引き網による生物調査を実施した。様々な魚類、節足動物、甲殻類等の参加者への解説は地元水族館学芸員によるもの。往路と逆の順でマリゲート塩竈を正午に解散。会員は別途拠点マリーナから小船3艘でテントや網などの事業に必要な資材を輸送し設営、参加者帰途後には撤収作業、資器材の洗浄などを実施している。採取したアマモの苗は桂島漁港内の区画に海中養生の状態で維持されている。 ②塩竈市立第一小学校4年生地域学習 北浜緑地護岸（湾だふるしおがま海浜公園） 6月16日 児童・教諭 35名 前年11月から4年生教室の水槽で発芽、生育させたアマモの苗を地域の海に植樹する地域体験学習の一環。リーフレットによるアマモも生態の学習と松島湾の特性との関連の座学のあとアマモの成長株に粘土を巻く粘土活着法にて海底にダイバーが植樹。その後、親水護岸の磯場にて生き物採取と観察を行った。学校と北浜緑地護岸までは大型バスにて送迎を実施。一連の作業や遊びをとおして子どもたちの気づきを発表してもらった。	③北浜緑地護岸（湾だふるしおがま海浜公園） 第2回生き物調査 6月29日 一昨年10月に供用を開始した北浜緑地護岸公園には塩竈市内で唯一の海に触れられる親水空間が設けられており、これは県による震災復興事業で建設されたものであるが、この親水空間が設置されるに至った経緯は当会の重ねての要望を汲んでいただいたものである。そこは市街地と近接する里海で市民の参加のしやすさ、活動の認知のされやすさなどが期待できる当会の念願の活動場所でもあった。昨年6月にも生物調査を実施しており、アマモなどの生物多様性創造などのアクションがゼロの状態で48種類の生息生物の種類を把握した。昨年11月「全国浄化槽団体連合会」の昨年度補助事業により、当親水護岸の海域にアマモの種をマットで挟み込んだものを撒布させていただいた。このアマモのアクションを経て親水護岸の生き物の生息種類がの推移を把握するための同時期同規模の第2回調査である。 具体的には海洋系専門学校生徒ボランティア、一般募集親子21組、協賛企業家族90人等の参加により岩礁エリア、砂質エリアに分けて30分間生き物を採取し専門家による種同定作業の実施と発見された生物の解説を実施。生息する生物から見えるこの地域の海の特性、気候温暖化、海洋環境の変化などにまで気づきがあった。その後、海洋プラスチックごみの回収を全参加者で実施。小さければ小さいほど生物に影響を与えることから量よりも質の海洋プラスチックごみの回収は生活に密接したプラスチック系のゴミが自然環境にいかにあふれているか身につまされるものとなった。その後、アマモは根でも増える多年生種もあることからこの海域に更なる繁茂を促進するためアマモの栄養株に紙粘土にを巻いて海底への定着をはかる粘土活着法にて参加者参加のもとダイバーによる海底への定着を実施した。 ④アマモの海で遊ぼう「夏休み親子体験」8月4日 里海に親しんでもらう親子行事。東日本大震災によるふるさとの海への怖れを楽しい思い出とともに癒し、親しみや愛着を抱いてもらえるよう企画。マリゲート塩竈から桂島へチャーター船で移動。桂棧橋で小船4艘に乗り換えてアマモドナーサイトである前浜へ移動。夏場のためアマモ場はだいぶ時期が過ぎているものの、その育んだ海の生き物を引き網などで調査観察する。生き物ビンゴ大会などゲーム性をもたせる工夫などで親子が協力して磯場の生き物にフォーカスして思い出づくりに貢献できるよう企図している。海難事故防止のためライフジャケットの用意や熱射病対策を講じながら、会では別途拠点マリーナから必要な資材を輸送し設営、参加者帰途後には撤収作業、資器材の洗浄などを実施する。 ⑤アマモの移植事業 北浜くろしおマリーナ 11月8日・予定 6月事業にて海中に涵養したアマモの花枝を回収し種を選別する。会場は会員のマリーナ内のクラブハウスにて実施。アマモは 冬に向かって発芽し翌年5月末ごろ種を実らせる生態サイクルのため、ゾステラマット（鉄製の50×50cmフレームにヤシ殻マットなどを挟んだもの）100枚を製作しアマモ種子を挟み込み繁茂を企図する海域へ投入する。松島湾内の水質浄化、多様な生態系の保全、海水温上昇の抑制、ブルーカーボン（Co2 吸収）などを目的に湾内の環境向上を図る事業。会員や一般参加者が種を選別。また寒天粘土に種を圧着させて投入する方法なども試しながら根の活性化を促進する資材も試用する。 移植予定面積1ha。船からの撒布の他、 ダイバーによる海底への定着などを実施する。

団 体 名	松島湾アマモ場再生会議（2ページ目）	
代 表 者	代表 桑原 茂	
所 在 地	宮城県多賀城市笠神3－1－39	
事 業 内 容	⑥ 塩竈市立第一小学校4年生地域学習 第一小学校教室 11月10日予定 教室内でアマモの種を選別して水槽に植える授業を実施。地域体験学習の一環としてアマモから連なる生物、地場の魚、食文化、産業などの連綿なる地域の営みなどを当会会員が伝えるもの。水槽の塩分%なども管理しながら発芽から生育を観察して次年の四年生へと引き継いでもらう。 ⑦ アマモ場再生のためのシンポジウム 2月28日（予定） しおがまパノラマ（レンタルオフィススペース） 2025年度の活動報告をしながら、次年度の活動内容を考えるシンポジウムを実施。PDCAサイクルのP及びCにあたるもの。外部講師を招きアマモを取り巻く最新の情報、発芽や繁茂を促す他地域の取り組み事例や工夫などの意見交換、ブルーカーボン認証などの新たな知見の活動への取り入れ方、企業CSRなどの動向など多岐にわたる検証と話し合いをする。昨今、企業からのアマモ／ブルーカーボンへの関心が高く、我々の活動を体系的に知っていただき、連携の発端の場にもなりつつある。 2. 課題 当会の活動開始から13年経過した。会員も高齢化が進みまた固定化していることは組織に弾力性が失われつつあるようにも思われる。企業の参画、海洋系専門学校生の参加など事業当日の体制については徐々に拡充が図られているものの、事業や会の主体的な運営体制については以前たるままのため新たな枠組みでの組織運営の検証が必要となっている。 また、アマモ場を復活させようという行動をはるかに上回るペースでの地球温暖化が押し寄せており、昨年はアマモのドナーサイトとしてきた場所ですら海水温が高くなりすぎてアマモが育たなかった。鉄鋼スラグ、FFCなど試料の投入を検証しながら過酷な環境でもアマモの繁茂を遂げることができるメソッドの開発の必要性を感じている。その効果検証のためには海中での経過観察が欠かせないものの、会員全員がアマモの活動とは別の本業を持っており、年間行事とは別にそれらに従事することは頻度、経費、結果のまとめ、情報の共有など多大な労力と時間が必要であり、それらを定期的の実施できる体制構築もまた必要となっている。 いずれにせよ、日本三景たる里海をより良い形で次世代へと継承するため会員各位の意気は高く、またそれを応援していただける様々な出会いにも恵まれている。創意によってより良い活動、体制を築いてまいりたい。	
事業実施期間	2025. 6～2026. 3	
事業実施場所	塩竈市浦戸諸島桂島他地内	
事 業 総 額	1, 460, 000円	
助 成 金 額	200, 000円	

団 体 名	美しい山形・最上川フォーラム	
代 表 者	会長 柴田 洋雄	
所 在 地	山形県山形市飯塚町 135-14 一般財団法人山形県理化学分析センター飯塚支所内	
事 業 内 容	「身近な川や水辺の健康診断」 1. 目的 ・「身近な川や水路の水質が知りたい」という県民の声に応えるため、誰もが参加しやすく、わかりやすい水質調査を平成14年度から毎年実施。水のにごりや富栄養化（窒素・リン）の問題への理解と関心を高める。 ・簡単な水質調査キットを使って調べる活動を通じて、子どもから大人まで河川への関心を深め、生活との関わりを理解し、水環境の大切さや改善したい課題を発見することで、水質や水の循環、動植物の生息環境の保全や改善のための取組みにつなげていく。 ・調査結果はホームページで公表し、情報の共有や地域ごとの課題解決の材料として活用することを期待する。 2. 内容 （１）参加グループ数：70グループ、調査地点200地点を想定 （２）調査の実施期間：6月7日（土）～6月15日（日） ※世界環境デー（6月5日）にあわせ、これまで実施してきたとおり、原則として上記期間を設けるが、学校で実施する場合や諸事情を鑑み、実施期間を10月24日（金）までとし、安全、安心に無理なく実施できるよう配慮する。参加者は、この期間内で都合の良い目時に調査活動を行う。 （３）調査項目 ①パックテスト6項目（パックテストや比色カード、調査マニュアル等は当フォーラムが提供。） （pH、COD、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、リン酸性リン） ②川の概要（水温、川幅、水深等） ③1メートル透視度計による水の透視度の測定（貸し出しを行う） ④水辺環境の目視調査（自然植生、泡立ち、散乱ごみ等） ⑤水生生物調査（主催：山形県環境科学研究センター） ※調査を希望する団体のみ当フォーラムを通して申込み可能とする。 ⑥同一地点において、公定法調査に協力いただける参加申込み機関に対して、大腸菌数調査も合わせて依頼する。 （４）調査結果 ・実施グループより6月20日（※6月16日以降に調査を実施した場合の最終締め切りは10月31日）まで報告書を提出してもらい、データを集計する。 ・調査結果を総合的に分かりやすく表すために、調査地点ごとに各調査項目を得点化し、清流指標「水辺診断書」（五角形によるレーダーチャート）を作成し評価する。 ・ホームページにて報告データを公表すると共に、年度末に河川地図上、流域ごとに水辺診断書の結果を掲載する。	（５）その他 ・パックテストによる調査にあわせて、パックテストの精度の参考とするため、一般財団法人山形県理化学分析センター、株式会社理研分析センター、一般社団法人山形県水質保全協会ほか環境分析関係事業所の協力を得て、同一地点において公定法調査も実施する。 ・上記環境分析関係事業所等からは、初めて参加するグループや小・中学校、高校等のグループの要望に応じて、現地調査サポートの協力をうけ、専門的な分野から水環境に対する啓蒙活動も行う。 ・小・中学校の実施グループには、総合学習の時間などに水辺の環境を考える参考として活用いただけるよう、報告を受けてから速やかに「水辺診断書」を作成し提供する。 ・ペットボトルで透視度計を作るワークショップを開催し、小学生の夏休みの自由研究のテーマなどとして水環境を考えてもらえる機会になるよう、この事業への参加を促す。
事業実施期間	2025.4 ～ 2026.3	
事業実施場所	山形県内全域	
事業総額	500,000円	
助成金額	200,000円	

団 体 名	和光自然環境を守る会	
代 表 者	会長 峯岸 正雄	
所 在 地	埼玉県和光市新倉 1-29-45	
事 業 内 容	「身近な川の水質調査等」 １．内容 ① 定例美化活動 毎月第１土曜日午前中に実施しています。美化活動は全長 3.4km の越戸川の下流部約 1.5km の区間をほぼ三等分してローテーション方式で行っています。美化活動は現在埼玉県の川の国応援団制度に基づき運営しています。収集ゴミにも変化が見られ近年は家電製品、工業部材等の粗大ゴミが大幅に減少し、現在ゴミの相当部分は各種の廃プラスチック類であり、県や市と連携して、7 年前から海洋プラスチックゴミ削減キャンペーンにも参加しています。下水管から河川への流入口の状況確認も無論重要なチェック項目です。上流域から下流域 6 カ所の水質調査でも、比較的 COD の値が高かった所も下がってきて川全体がほぼ良好な数値になってきました。下水管から川に流れ込む汚水箇所もあまり見られなくなってきたのは良い傾向です。遊歩道沿いの花壇の手入れは、毎月第 2 木曜日午前中に越戸川こえどがわと谷中川やなががわの合流点付近を中心に実施しておりましたが、樹木が順調に生長する一方で当会員の高齢化が進み、高所作業の継続は危険と判断、県の了解を得て、高所作業は県経由で業者に移管しました。低木の剪定せんていと雑草取りは美化活動の一環として継続しています。 ② 夏休みジャブジャブ大会 水辺再生工事を機に 18 年前より開始しました。夏休みの思い出作りに子供向けの事業として毎年 8 月に開催して来ましたが、3 年前より親子共に学び楽しめる場に変更しました。プログラムは教材用の小冊子を使用して青空教室と魚とり、水質調べ等です。参加者は毎回概ね 100 名程度で魚とりに熱中します。越戸川では遡上するアユの増加に伴い手網でアユを捕まえる子供は珍しくありません。なお、今年度は 8 月 19 日（火）開催予定です。 ③ 国土交通省所管の全国一斉身近な水辺の水質調査には当該調査開始以降 21 年皆勤、また環境省所管水生生物調査にも 16 年前から参加しています。採取された水サンプルの分析結果や捕獲した指標となる水生生物の変化から、着実な水質改善が窺えます。 ④ 12 年前より近隣の和光市立小学校 2 校の総合学習を支援しています。今年も既に北原小と新倉小の 5 年生各 85 名を対象に総合学習を実施しました。テーマは北原小が生き物調べ、新倉小は川のゴミと水調べでした。毎度のことですが、川の中の子供たちは極めて生き生きとしており、見守る方も楽しくなります。今年は参加した両校の生徒全員から感想文兼礼状を戴き、当会員にとり大きな励みとなりました。 ⑤ 和光市立小中学校生や埼玉県立和光南特別支援学校初任教諭の夏休みボランティア体験活動を受け入れています。シニアが多数の当会会員にとり夏の盛りに汗を拭きながらの孫の年頃の小中学生や若い先生方との協働作業は楽しみでもあります。 ⑥ 和光市環境審議会、和光市環境づくり市民会議で代々中心的役割を担っています	⑦ 多くの市民活動団体と行き来し、ネットワークを構築、また必要に応じ行政、一般市民、建設業者および専門家間の橋渡しを行っています。一例として 4 年前から東洋大学理工学部青木研究室のアユ等の遡上を補助する簡易魚道の設置研究を支援し成果を得ました。“NEXT 川の再生 in 越戸川”で計画されている魚道の新設に当研究成果が活用される見込みです。 ２．課題と展望 当会が活動を始めた頃の越戸川は都市化の進展に伴いヘドロが堆積し、悪臭漂う当時の典型的な小河川でしたが、下水道網の整備拡張や合併浄化槽の普及、当会の地道な努力、更には 2008 年から 2012 年にかけて実施された埼玉県の水辺再生工事（水辺再生 100 プラン）の効果が相俟って、今や清流が復活し、散策路を行き交う市民も増え、子供達の歓声かわもが川面にこだましています。 2002 年の秋埼玉県より“NEXT 川の再生”事業で越戸川が唯一対象河川に選定された旨通知を受け、当会もこれに参画し、和光市役所及び多数の市民の協力を得て“NEXT 川の再生 in 越戸川”の工事内容が明らかになってきました。アンダーパスの設置や魚道の増設等当該工事内容につきましては次ページを参照願います。 さて、当会に於きましても昨今の定年延長や社会保険給付年齢の引き上げ等に伴い前期高齢者がほぼゼロ化、一方後期高齢者は急増の状況です。当地に於きましてもボランティア活動を停止する団体が相次いでいます。このような事態に至らぬよう美化活動の継続を最優先に会員の確保、役員の若返り等取り組んで参ります。 幼稚園や小学校時に越戸川に親しみ、更に中学校時にボランティア活動等を通じて川への理解を深めた多くの子供達が年々巣立っています。これらの子供たちが成人して後大学生や社会人、或いは PTA の一員として当会の活動に参画し始めており、喜ばしい限りです。 5 年前に和光市が実施した専門家を交えた調査で越戸川とその周辺の武蔵野の面影を留める森は市内に残る最も生物の多様性に富んだ掛け替えのない地域である旨明らかになっています。 和光市のスローガンは“快適環境都市”、当会は町づくりの一翼を担い、多くの市民と手を携えて“生き物と人と風景が溶け合う越戸川”から“人も生き物も、もっと遊びたくなる川へ”と引き続き実践して参ります。
事業実施期間	2025.4 ～ 2026.3	
事業実施場所	埼玉県和光市内の新河岸川水系越戸川	
事業総額	211,030 円	
助成金額	100,000 円	

団 体 名	富山県立大学	
代 表 者	環境社会基盤工学科 三小田 憲史	
所 在 地	富山県射水市黒河 5180	
事 業 内 容	事業内容 研究テーマ：生活排水に含まれる蛍光成分を利用した汚濁の追跡手法開発に向けた検討 生活排水には人間活動に由来するさまざまな物質が含まれており、その中にはヒトや生態系に対して有害性を示すものも存在する。こうした汚濁負荷を低減するため、生活排水の処理技術はこれまで飛躍的に発展し、下水道や浄化槽といった下水インフラは全国に広く普及してきた。一方、現在は人口減少や地方におけるインフラの老朽化、維持管理体制の脆弱化といった社会情勢の変化が顕在化しており、それに伴い水環境保全において新たな課題が今後生じる可能性がある。例えば下水管路の誤接続や老朽化による損傷のほか、維持管理不十分な浄化槽からの生活排水の漏洩はその量がわずかであっても水環境に大きな悪影響が懸念される。このような背景から、生活排水による水環境の汚染を未然に防ぎ、その影響を最小化するためには、監視体制の強化だけでなく、流出をいち早く検知できる簡便かつ実用的なモニタリング手法が求められる。こうした課題の解決にむけて、我々は水環境中の蛍光性溶存有機物（FDOM）に関する研究を行ってきた。特に、3 次元励起蛍光分光法（EEM）を用いた水質評価や汚濁源解析手法の確立に取り組んでいる。EEM は少量のサンプル（10 mL 程度）で簡便な前処理と短時間測定が可能な応用性の高い手法である。これまでの研究で、生活排水のサンプルを測定したところ、入浴剤に含まれる化学物質や、タンパク質に由来する蛍光ピークが特徴的に検出されることが明らかになっており、これらの蛍光強度を指標として利用することで EEM が生活排水の迅速な検知に有効であることが示唆されている。そこで本研究では蛍光強度を利用した生活排水検知技術の開発に向けた水質の基礎調査を行う。富山県内の土地利用や人口密度の異なるさまざまな場所から用水路、河川、湧水などの水サンプルを採取する。サンプルはろ過後に EEM で測定し、入浴剤由来やタンパク質に由来する蛍光強度および発現成分の存在実態を調べる。必要に応じて他の化学物質や水質項目とも比較検討することにより、EEM の生活排水の検知手法としての妥当性と特徴も検討する。本研究は簡易モニタリング手法の構築に貢献するとともに、地域の水環境保全や、適切な生活排水処理の重要性の啓発にも繋がると期待される。	
事業実施期間	2025. 7. 1 ～ 2026. 3. 31	
事業実施場所	富山県内	
事業総額	3 5 0 , 0 0 0 円	
助成金額	1 7 5 , 0 0 0 円	

団 体 名	上林川を美しくする会	
代 表 者	会長 西川 卓男	
所 在 地	京都府綾部市野田町須知山 110-10	
事 業 内 容	「上林川を調べて・知って、守り育てる活動事業」 1. 目的 「上林川を美しくする会」は、市民・団体・行政の協働により環境保全に資する様々な活動を自発的かつ継続的に実施しており、京都府内有数の清流である上林川を次代に引き継ぐことを目的としている。 2. 内容 (1) 川の中に入って生き物を調べよう(水生生物調査) 小中学生の児童生徒が川の中に入り、川に生息する魚や生き物を観察したり、採取したりする体験を通して、ふるさとの川に親しみ、身近に感じてもらうことで川を大切にする心を育てる。また、水生生物について学んでもらう場とする。 実施：会員・地元小中学校児童生徒 場所：上林川流域 時期：令和7年6月～9月を予定 (2) 上林川のヨシを刈り、景観を美しくしよう(ヨシ刈り作業) 上林川の景観保全や水域浄化を図ることを目的とする。ヨシ刈り作業を行うことで川を大切にする活動の輪を広げる。 実施：会員・流域住民 場所：上林川流域 時期：令和7年6月～9月を予定 (3) 上林川流域の環境美化を図ろう(上林川環境美化大作戦) 上林川の環境美化を図るため、会員だけでなく、上林川流域住民と一緒に一斉美化作業を実施する。 実施：会員・流域住民 場所：上林川流域 時期：令和7年11月を予定 (4) 上林川の現状を把握しよう(水質調査) 上林川の清流を守るため、継続して水質調査を行うことで現状の把握を行う。会員が上林川流域12箇所で採水を行い、透明度・pH・D0の測定を行う。採水の詳細な検査(BOD・SS等)は専門業者に依頼し分析を行う。 実施：会員 場所：上林川流域12箇所 時期：通年 (5) 上林川に関する情報を発信しよう(会報発行) 会の活動を市民に知ってもらうため、会報を作成し配布を行う。市民に上林川の現状を知ってもらうとともに、川の水をきれいにするために普段から出来ることを実践してもらう契機とする。 実施：会員 場所：市内全域に配布 時期：年2回(9月・3月)を予定	
事業実施期間	2025.5.1 ～ 2026.3.31	
事業実施場所	綾部市内	
事業総額	726,240円	
助成金額	200,000円	

団 体 名	学校法人 大阪学園 大阪高等学校 科学探究部	
代 表 者	科学探求部顧問 谷脇 鉄平	
所 在 地	大阪府大阪市東淀川区相川２－１８－５１	
事 業 内 容	1. 背景 環境問題は 21 世紀に解決すべき地球規模の危機的課題とされており、次世代の人材育成においても環境問題に関する教育は、重要な項目の 1 つである。事実、SDGs が国連サミットで採択され、2030 年までの国際目標とされている。また、現在開催中の 2025 年日本国際博覧会(大阪・関西万博)は、SDGs を 2030 年までに達成するためのプラットフォームになることを掲げている。 このような実状もあって、ここ数年、民間団体の主催する自然と触れ合う体験イベントが増えていることにも繋がっている。ところが、昨今の子どもたちを取り巻く受験環境では、進学のための勉強に偏りがちなため、特に中学校や高校現場では理科及び環境教育で重要な実験授業やフィールドワークといった「学びの実体験」を通常授業内で実施することは困難な事情がある。他にも、2020 年～2023 年は新型コロナが世界規模で流行したことで、「学びの実体験」を伴う活動が制限されたため、実際に本校でもここ 6 年間は「学びの実体験」が少ない入学者は多く、体験格差の広がりはいまだに経験したことが無い深刻な課題として受け止めている。 このような背景がある中、これまで本校科学探究部が取り組んできた「環境 DNA 分析を利用した研究活動」の実績は数多くあり、学会等の様々な場で発表してきた。 2017 年から始めた京都産業大学との共同研究(高大接続)は第 1 回及び第 3 回環境 DNA 学会(高校生部門:最優秀賞)等、2020 年から始めた富山大学学術研究部理学系の山崎裕治准教授との共同研究(高大接続)は第 4 回環境 DNA 学会、令和 4 年度及び令和 5 年度日本水産学会春季大会(高校生部門:最優秀賞)、令和 5 年度河川基金研究成果発表会(研究者・研究機関部門:優秀成果表彰)等で発表し、クラブ活動を通じた教育・研究実践が「高校生らしい活動」として評価いただいた。 コロナ禍でも充実した活動実績を築き上げたことで、これらの評価を得た生徒たちは、活動実績を生かし総合型選抜や学校推薦型選抜で多方面の進学実績に繋がっている。 他にも、環境 DNA 分析は 2023 年度から中学 3 年生が使用する理科の教科書(新興出版社啓林館)に掲載されたため、その掲載記事を見た生徒が本校科学探究部の活動を知り、2025 年 4 月に本校入学へと繋がった。 大学だけでなく高校でもたんに偏差値で決めている訳ではなく、「何を学びたいのか」「何がしたいのか」といった具体性を持って学校選びをしているため、環境 DNA は主体性を育むための教育材料を担っている。 主な進学実績(2017 年度創部) 2019 年度京都産業大学 2020 年度東京農業大学 2021 年度富山大学 2022 年度富山大学、京都産業大学 2023 年度東海大学 2024 年度島根大学、長浜バイオ大学 2. これまでの研究 本校科学探究部は、2020 年 3, 月から 2024 年 5 月まで富山県氷見市を拠点にタナゴ類をはじめとする魚類相の環境 DNA 分析手法(網羅的環境 DNA 手法、種特異的環境 DNA)を用いて調査 1)2)3)4)してきた。 ところが、2024 年 1, 月に引き続き、2024 年 6. 月に再び発生した能登半島地震の影響で、安全面を考慮して富山県氷見市での活動を断念することにした。 そこで、これを機会に活動拠点を地元大阪に切り替えて、2024 年 6 月以降は、淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク(イタセンネット)に加盟し、淀川城北ワンドでの外来種の駆除活動やごみ清掃活動に参加しただけでなく、本校近くの神崎川や淀川三島江ワンドでも外来種の駆除活動やごみ清掃活動を今日に至るまで行ってきた。 このような背景がある中、並行して 2025 年 4 月に有限会社工一環境研究所の岡田龍也氏と出会い、これまでの本校科学探究部の活動に興味関心を持っていただいた。 3. 今後の研究活動及び研究スケジュール 2025 年 6 月に有限会社工一環境研究所の岡田龍也氏からツチフキ(コイ科カマツカ亜科)5)について、環境 DNA 分析手法(種特異的環境 DNA 手法)を用いた生息状況調査を提案いただいた。 ツチフキは、大阪府レッドリスト 20146)で「絶滅危惧 1 類」に選定されており、淀川の河川改修や水路のコンクリート化によって生息域が失われ、さらにオオクチバスやブルーギルといった外来魚が侵入・増加したことで激減し、1990 年代を境に生息が確認できない状態となり、絶滅した可能性も考えられていた。ところが、2022 年 6 月に守口市、2022 年 8, 月に高槻市の淀川で約 30 年ぶりに再発見 7)された。 そこで、本研究では、守口市から高槻市を渡る淀川の河川域だけでなく、本校周辺の河川域でも環境 DNA 分析及び目視・捕獲によるフィールドワーク活動を通じてツチフキの生息状況調査を行いながら、並行して外来種の駆除活動やごみ清掃活動も行い、希少種や在来種の保全に貢献することを目的とする。	
事業実施期間	2025. 4. 1 ～ 2026. 3. 31	
事業実施場所	淀川水系河川	
事業総額	404,960 円	
助成金額	200,000 円	

